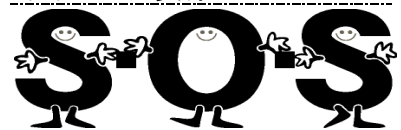


◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



vol. 162通信  
H26年2月9日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス  
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036  
代表TEL：(0567) 26-3921  
FAX：(0567) 26-3922  
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

利用状況案内板 (★募集中 ★満員)

★ナイス・ケア

★ナイス・デイ (定員10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
5	5	7	5	6	6	7

★ナイス・ホーム (登録者16名/定員21名)

★愛宕の家 (入居者16名/定員17名)

★つしま紹介所 ★ナイス・キッズ

★打太鼓※3月には新メンバー募集します。

～上記を参考にご利用下さい～

《2月予定》

- 3日 節分
- 10日 外食デイ
- 20日 避難訓練
- 22日 13:30～  
愛宕の家家族懇談会  
14:00～誕生日会

《不定期行事》

その日の天気や意欲等で状況判断して、外出先一覧を参考に社会生活参加します

癒しの笑顔/愛宕の家

いつもニコニコしているSさん。毎日定位置に座っていて、通りかかるスタッフや入居さんたちに声をかけられ、笑顔振りまいている。  
あるスタッフが「仕事していて落ち込むことや、嫌な事もあるけどSさんの顔を見ると頑張れるし、ホッとする。」と何気なく言っていた。まさに癒しの笑顔! だと思った。人が年を重ねて出る表情というのは、その人生や性格が表れるものなのだろうか? さらに認知症ともなるともっとその人の素の部分が出るのだろうか? 経験の浅い私には全く分からない。でも、人に癒しを与えられる笑顔って、なかなかできるものじゃないと思う。そうなれるように年を重ねていきたいと思う。  
だけど、Sさんだって人間。機嫌の悪い時はビックリするくらい悪い表情だってするのです(笑)。(K・T)

人と関わる仕事/ナイス・ケア

朝・昼・夕の1日3回利用しているHさん。食事前にはヘルパーと一緒に「いただきます」と言うのが常である。そんなある日、食事前の「いただきます」を忘れていました。

些細(?)なことがきっかけだったが、その時ふと、最近の自分の行動を振り返った。私はHさんを見て会話をしていたらどうか・・・。

落ち着いて関わったら色々な事が見え隠れする。以前に比べて会話も減ってきた。最近、体調も不安定、歩行や食事の動作がゆっくり。それでも自分の力で動こうとしています。

日常生活や業務などに追われた感を持つようになってしまい、本来の役割を忘れていたのではないかと。ひと息ついて、利用者さんに寄り添う気持ちで訪問しよう・・・と反省しました。(T・M)

介護と看護・終末期を迎えたSさん/看護師

終末期を迎えているSさんが愛宕の家にいる。癌が骨転移したことで右足は切断。左足は病的骨折をしており治療が難しいと判断、骨折したままの脚と付き合っただけ数カ月。肺への転移から胸水も増えている。幸い麻薬での疼痛コントロールは良好であるが悪化時のことを考え医療機関の緩和病棟への予約がしてある。

根拠のない憶測《憶測 (ass-u-me) とは、u(あなた)と me(私)を ass(ばか)にする》からの看護は通用しない。詳細な点にも配慮し、全ての症状や訴えに繰り返して「なぜ」と問いかける問題意識を維持する必要がある。でもSさんといくと無力であることを思い知らされる。無力であることを自覚し、謙虚であることを忘れたくない。Sさんに付き添い、恐れず、逃げないこと。私はあなたに何が出来るであろう。入居してからの日々を記録していきたい。その中に、生活に必要な『看護』が見える。(M・T)



何ができるのか/ナイス・ホーム

脳梗塞の後遺症で左片麻痺に加え、しもやけの痛みから歩行もままならない。1年の半分以上は「痛い。痛い。」が口癖の毎日。足は水ぶくれ。それが破れ浸出液が出る。足全体が血行不良のため赤黒い・・・私達に出来る対応がないのかと、辞書を引き、受診している皮膚科医に連携を求め、アドバイスを求める。

結果、入浴とは別にジェットバスにて足浴施行中。「痛い。もうやめてくれえ!!」と痛みを耐えながら大きな声が出る時も多いが、私達はやめない。

現在、当初よりも赤黒さが減少している様に感じる。声だけ聞けば、「ひどいことをする事業所」だと思えるかもしれない。しかし、その人のために、自分たちに今出来る何かを試行錯誤し、非難されることも承知で真剣に関わる今の姿勢を悪いとは思わない。これからも毎回ジェットバスを準備しますよ♪(I・S)

やりたいと思える気持ちも作る/ナイス・キッズ

子どもたちの靴。多い時は6~7人分。靴が入り口付近で散乱している。『下駄箱へ入れなさい〜い!!!』と、何度叱っても直らない・・・。

そんな時、半年ぶりにキッズ工作教室が復活することになり、「何か子供達にやらせたいことある?」と聞かれ「下駄箱作り」と愚痴混じりにリクエストした。

1月18日(土)、子供たちは真剣に絵を描き、かなづち片手にトンテンカンテン・・・正午には可愛い下駄箱が完成。さらに、元々使用していた下駄箱に合体させ、使いやすいようにセット完了。

以降、靴が毎日所定の位置に並んでいる。その時、「靴を下駄箱に仕舞おう」という気持ちも一緒に作れたのだと気付いた。(H・O)



歩行介助の考え方/理学療法士

(12月発行号の続き)歩行介助についてもう少し。

Nさんは進行方向に向かった状態で立ち上がると比較的スムーズに歩き出せます。しかし、立ち上がってから「くるっ」と向きを変えて歩き出すと姿勢が崩れてしまい、最初の歩が出なくなります。そこで、一つ対応策。

歩行前に歩きたい方向に身体の向きを変えてから、四点杖を支えにして立ってもらおうと足は出やすくなります。Nさんは方向転換がとっても苦手なのです。安定した歩行のためには、座っている状態での方向回転援助が先決。

小さなことだけど、援助ひとつで大きな変化が生まれます。個々に合った介助方法を見極めましょう。(U・I)



家族の想い/ナイス・デイ

一年前、不慮の事故により半身麻痺でほぼ寝たきりになったUさんがいる。デイ送迎時、奥さんはとても朗らか。Uさんに一生懸命向き合っている様子がひしひしと伝わってくる。

ある日、福祉用具の担当者さんが車イスの調整確認がてら「顔色が良いですね。」「そう?」と面談していた。確かに・・・。

2カ月前、30分程が限界だったが、今では調子が良いと2時間もの間、座っていられる。当時は吸引行為も必要だったが、今はほとんど使用していない。

福祉用具の担当者さんが教えてくれた。「医師からは『自宅生活は絶対無理だからやめたほうがいい』と言われたが、奥様の『絶対に退院する。自宅で夫を看たい。』という強い想いを通された。介助もとても上手になられたんですよ」と。

この時、話を一緒に聞いていたUさんの目からは大粒の涙が・・・。通所介護のひと時だけだが、「大切な家族を預かっている」とこの時改めて痛感。今年の年頭、Uさんは「歩けるようになりたい」と絵馬に書いた。胸が熱くなった。少しでもUさんとUさん家族の力になりたいと思う。(M・O)

小学2~4年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚を大人が選び、掲載します



編集後記 喜怒哀楽を素直に出せる事はステキな事。素直になれない自分に気付いて何だか寂しくなることがある。色々な会話を交わす毎に、気持ちを出し合える関係を作りたい。素直な気持ちを出してもらえ器を持ちたいと思う。(Y・O)